

地球規模保健課題解決推進のための研究事業（日米医学協力計画）
「日米医学協力計画の若手・女性育成のための日米共同研究公募」
事後評価 課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	アジア/太平洋地域にまん延する肺 NTM 症の宿主因子の同定 / Identification of host factors of pulmonary NTM diseases in the Asia Pacific region
研究開発機関	結核予防会 結核研究所 抗酸菌部
研究開発代表者	森本 耕三
研究期間	令和 1 年 9 月 10 日から令和 4 年 3 月 31 日

○評価委員会コメント

強み：

- 得られた成果は医療分野としても社会的ニーズという点でも重要な知見である。日本、米国、韓国の3カ国の共同研究が実施でき、研究成果が得られた点は評価できる。
- 着実な成果の積み重ねにより、我が国の肺 MAC 症の克服への研究進展を期待する。
- 肺非結核性抗酸菌症の感受性遺伝子を追求することを目的とした研究であり、肺 NTM 疾患の遺伝的リスク因子を明らかにした点で評価できる。また、肺非結核性抗酸菌症の疾患感受性の判定方法に関する特許出願もなされており、必要な知的財産が確保されている点も高く評価できる。今後肺非結核性抗酸菌症の対策に資することが期待できる。

弱み：

- 大規模な研究の一部という印象であり、どこまでが本事業での成果かが明らかでない。研究結果で示されている 1,000 人以上の検体の解析が、本事業の予算額で可能であるか疑問が残る。
- 日本側の研究開発代表者を中心とした研究開発体制が適切に組織されている。それぞれの担当者が、適材適所に配置されているが、一方で、米国側、並びに韓国側の研究組織は、各一人であり、不十分である。